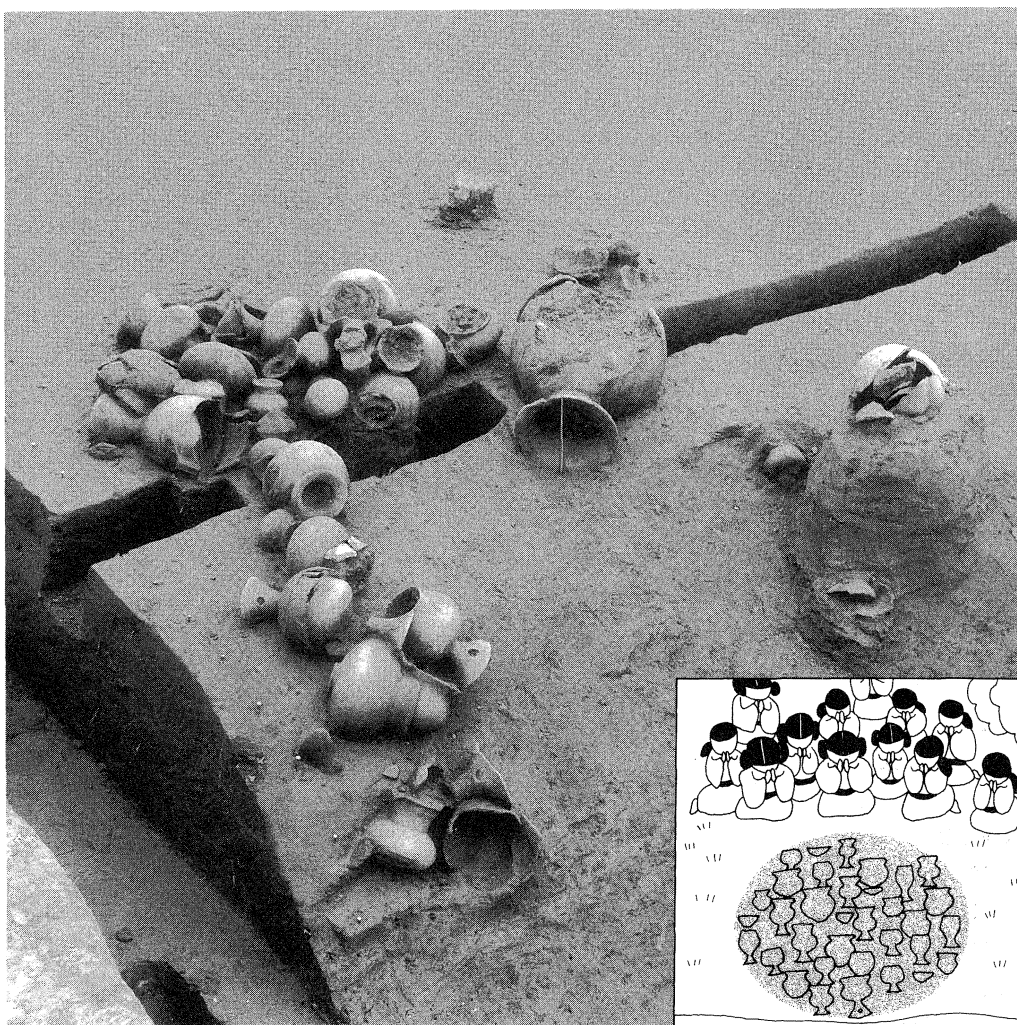


埋蔵文化財 愛知

No.21



岡島遺跡出土の土器群

愛知県西尾市

河岸の祭祀跡か。河岸近くの砂層中より30数個体の土器が、あたかも据え置かれたような状況で出土した。小型壺(ミニチュア壺)・台付壺等が多く、何らかの祭祀に関わるものではないだろうか。弥生時代後期。89A₂調査区。

平成 2 年 度 事 業 計 画

(財)愛知県埋蔵文化財センター

●埋蔵文化財発掘調査及び報告書の刊行

- 東海北陸自動車道関係 約 5,520㎡
 - 1. 田所遺跡 2. 西上免遺跡
 - 3. 毛受遺跡他 (一宮市・尾西市)
- 名古屋環状2号線関係 約 2,697㎡
 - 4. 松河戸遺跡 5. 勝川遺跡(春日井市)
- 国道23号線バイパス関係 約 9,000㎡
 - 6. 岡島遺跡 (西尾市)
- 足助バイパス関係 約 500㎡
 - 7. 成瀬遺跡 (足助町)
- 名古屋家裁・簡易裁判所合同庁舎関係 約 2,600㎡
 - 8. 名古屋城三の丸遺跡 (名古屋市)
- 潮見バイパス関係 約 600㎡
 - 9. 境川遺跡 (豊橋市)
- 県道萩原多気線関係 約 3,000㎡
 - 10. 岩倉城遺跡 (岩倉市)
- 勝川土地区画整理関係 約 329㎡
 - 11. 勝川遺跡 (春日井市)
- 県道東三河環状線関係 約 5,000㎡
 - 12. 淡洲神社北遺跡 (豊川市)
- 県道新川清洲線関係 約 1,020㎡
 - 13. 清洲城下町遺跡 (清洲町)
- 県道蒲郡碧南線関係 約 5,000㎡
 - 14. 東光寺遺跡 (幸田町)
- 中畑橋橋梁整備関係 約 880㎡
 - 15. 清水遺跡 (西尾市)
- 県道加納東保見線関係 約 300㎡
 - 16. 根川遺跡 (豊田市)
- 県道瑞浪大野瀬線関係 約 4,500㎡
 - 17. 上万場遺跡 (旭町)
- 五条川改修関係 約 5,600㎡
 - 18. 清洲城下町遺跡 (清洲町)
- 尾張病院改築関係 約 3,500㎡
 - 19. 山中遺跡 (一宮市)
- 報告書の刊行
 - 大淵遺跡 (名古屋環状2号線関係)
 - 池下古墳 (名古屋環状2号線関係)
 - 朝日遺跡Ⅰ (名古屋環状2号線関係)

- 松崎遺跡 (県道247号線関係)
- 麻生田大橋遺跡 (県道東三河環状線関係)
- 森岡遺跡 (県道東三河環状線関係)
- 土田遺跡Ⅱ (水質障害対策関係)
- 清水遺跡 (中畑橋橋梁整備関係)
- 成瀬遺跡 (足助バイパス関係)
- 境川遺跡 (潮見バイパス関係)

●発掘調査技術等研修会の開催

- 基礎研修会 2日間 募集人員 30名
平成2年8月23日・24日
- 専門研修会 2日間 募集人員 40名
平成3年1月24日・25日

●広報紙誌の発行

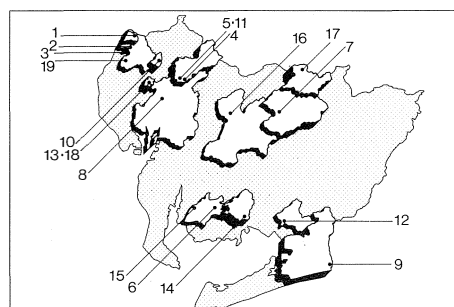
- 「愛知県埋蔵文化財情報6」の発行 年1回
- 「埋蔵文化財愛知No.21～No.24」の発行 年4回

●埋蔵文化財展の開催

- 第1会場 春日井市役所大会議室 (12階)
7月28日(土)～8月5日(日)
- 第2会場 愛知県埋蔵文化財調査センター
8月13日(月)～8月31日(金)

●埋蔵文化財講演会の開催

- 第1会場
春日井市役所イベントホール (11階)
8月4日(土)午後1時30分より
講師 宮本長二郎先生
(奈良国立文化財研究所)
- 第2会場
弥富町総合社会教育センター ホール
8月26日(日)午後1時30分より
講師 森 郁夫先生
(京都国立博物館)



遺 跡 の 位 置

愛知県教育委員会実施の調査事業

愛知県教育委員会文化財課

県教育委員会は、遺跡の周知徹底をはかり、様々な開発事業との調整・協議のための基礎的資料の作成を、市町村教育委員会の協力をえてすすめてきたが、本年度も次に掲げる調査を実施していく。

(1) 中世城館跡調査事業

文化財課では、昭和54年度に市町村教育委員会の協力のもとに県下の城郭遺跡の現況概要を調査し、823カ所（尾張地区272カ所）の城館跡を確認している。それらは、山間部・丘陵部・平地部に立地し、多様な形態を示している。しかし、近年の山林の著しい荒廃や各種開発事業の進行に伴って、城館跡の現状が変容し、さらには滅失するおそれが増大しつつある。このため、城館跡の現状等を正確に把握し、その保存に努めるとともに、開発事業との調整・協議に備えるため分布調査を実施するものである。

また、県下の城館跡の多様な形態は、中世から近世初期にかけての尾張・三河の政治的あるいは軍事的情勢を反映しているものと考えられ、この視点での研究資料の蓄積を目的としている。

調査方法は、関係市町村教育委員会の協力のもとに漸次計画的に現地踏査を実施し、城館跡の現状確認、聞き取り調査及び縄張図の作成を行う。同時に、関連する文献・地誌・絵図・地籍図を検索し、必要に応じてそれらの撮影、複写を行い、調査カードを作成する。

本年度は、一昨年度以来の調査に基づいて尾張地区の調査報告書を作成する。

(2) 重要遺跡指定促進調査

県内に所在する重要な遺跡については、将来にわたって保護、保存するために文化財保護法や地方公共団体の文化財保護条例等による指定保護が必要となっている。

そのためには、遺跡の範囲や内容などを明らかにして、遺跡の歴史的な位置づけを行うことが求められている。

県教育委員会では、昭和44年以降、県内の各遺跡で重要遺跡指定促進調査を実施し、数多くの遺跡が史跡として指定され、遺跡の保存活用が実現されている。

本年度は、尾張地区の古墳を調査対象とし、地形測量などの確認調査を実施し、遺跡の範囲や重要度を掌握するための基礎資料の収集、整備を行う。

(3) 清洲城跡調査

西春日井郡清洲町にある清洲城と城下町跡は、16世紀後半代における尾張の支配体制や、近世城下町の形成、都市構造等を知るうえで、極めて重要な位置にあると評価されている。

このため昭和63年度より、学識経験者、行政関係者による調査等検討委員会を設置し、今後の調査方法の検討や関連資料の収集等を進めてきたが、平成2年度は前年に引き続き、遺跡地における土地利用の実態を掌握するための現況土地利用図の作成を行う。

(4) 第3回埋蔵文化財調査研究会の開催

平成元年度に実施された発掘調査のうちの主要な9例の内容報告を中心に情報交換を行う。

開催日 平成2年7月6日(金)

会場 愛知県埋蔵文化財調査センター



シリーズ「縄文遺跡」を語る

麻生田大橋遺跡の土器棺墓

1. はじめに

ここ数年、全国的に縄文時代から弥生時代にかけての諸問題の研究が活発化している。「弥生時代」をどのように定義するかという考え方の違いにより、凸帯文系土器の時期を従来の縄文時代とする考えに対し、稲作を重視する視点から、これを弥生時代としてとらえようとする考え方が発表され注目を集めた。

尾張・三河地方は、大きくは凸帯文系土器の系列に属するが、条痕文系土器の諸問題も加わり、問題はより複雑な様相を呈している。

麻生田大橋遺跡は、凸帯文系土器、条痕文系土器を使用した土器棺墓が多数検出され、これら諸問題を解明する上で鍵となる重要な遺跡の一つである。

2. 調査の概要

麻生田大橋遺跡は、豊川市教育委員会により昭和52年度から13次にわたり、愛知県埋蔵文化財センターにより昭和63年度から3次にわたり発掘調査が実施されている。調査面積は1万㎡を越える。調査の結果、縄文時代晩期後半から弥生時代前期にかけての土器棺墓群をはじめ、弥生時代中期の方形周溝墓群、古墳時代後期の竪穴住居群、中・近世の溝状遺構で区画された掘立柱建物群・墓塚等が検出され、縄文時代から中・近世に至る複合遺跡であることが確かめられた。

3. 土器棺墓

麻生田大橋遺跡では、現在250基近い土器棺墓が検出されている。複合遺跡であることによる後世の破壊、現代の耕作等による破壊を考慮に入れると、さらに多くの数の土器棺墓が存在したものと推測できる。調査面積の多少はあるが、現在のところこれだけ多くの土器棺墓が検出された例は麻生田大橋遺跡以外知られていない。

土器棺に用いられた土器は、日常生活で使われていた深鉢・甕・壺・鉢等を転用したものである。土器の底部もしくは胴部に穴をあけ、そ

の中に人骨を入れ、他の土器の胴部、底部で蓋をしたり、2つの土器の口を合わせた合口棺として墓塚の中に横ないしは斜方向に埋納するのが普通である。稀に立方向に埋納したものや、土器の肩部下に土まじゅうや石をおいて安定をはかる施設を持つものがある。はっきりとした副葬品は認められない。土器棺墓は、渥美郡田原町の吉胡貝塚出土例からわかるように、縄文時代晩期以降に東海地方西部で盛行する再葬墓の一種である。麻生田大橋遺跡の土器棺内からは、はっきりした人骨の出土例はないが、一部の土器棺内の埋土中に微細な骨片が混じることから一連の再葬墓と考えてまちがいない。

4. 土器棺墓の時期

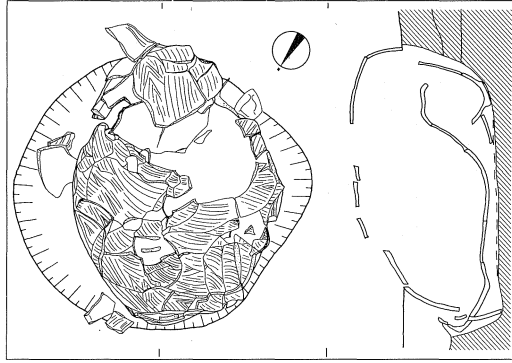
東三河地方の縄文時代晩期後半から弥生時代前期にかけての土器型式は、稻荷山式一西之山式一馬見塚式一檜王式一水神平式（Ⅰ・Ⅱ・岩滑式）とするのが大勢である。しかし大筋は認められつつも、水神平式の細分の問題、馬見塚式土器の組成の問題など細かな点ではまだ未解決の部分が多く残されている。それは、水神平遺跡・檜王遺跡・伊川津遺跡・吉胡貝塚などこの時期の土器が出土する遺跡では住居跡からでなく土器棺墓として検出されることが多く、層位的にみても、土器組成の点においても弱い部分があるからであろうと思われる。

麻生田大橋遺跡も住居跡の検出はなく、時期決定は土器棺墓に頼らざるを得ない。土器棺墓は単独で検出されることが多く、切り合い関係は認められず、層位的にもきわめて弱い。しかし、土器棺墓データ一覧表を見てわかるように、棺身と蓋の組み合わせ、合口棺の組み合わせ等が数多く見られる。これらの組み合わせを検討し体系づけることにより、器種・器形の変化、調整技法・調整器具の変遷・土器組成などがかなり明確化するはずである。次回では、麻生田大橋遺跡における土器棺墓の編年について考察してみたい。

(安井俊則)



89A S Z 39 土器棺出土状態



89A S Z 29 土器棺出土状態図(1:20)

年度	番号	埋葬状態	埋葬方法	器種	土器型式	年度	番号	埋葬状態	埋葬方法	器種	土器型式						
63	S Z 01	斜位	合口棺	甕・深鉢	馬～檜	89A	S Z 60	横位	単棺	甕	馬見塚						
		横位	単棺 (深鉢口縁部で蓋)	甕	馬見塚			61	横位	単棺	深鉢	馬見塚	横位	単棺	深鉢	馬見塚	
		横位	単棺	深鉢	水神平			02	横位	合口棺	甕・深鉢	馬見塚	03	横位	合口棺	甕・深鉢	馬見塚
		横位	単棺 (甕の胴部で蓋)	深鉢	馬見塚			04	横位	単棺	深鉢	五貴森	05	横位	単棺	深鉢	五貴森
		横位	合口棺	深鉢・深鉢	馬見塚			06	横位	単棺	甕	五貴森	07	横位	単棺 (甕の底部で蓋)	深鉢	五貴森
		横位	単棺 (甕の底部で蓋)	甕	五貴森			08	横位	単棺	深鉢	水神平	08	横位	単棺	深鉢	水神平
		立位	単棺 (深鉢の底部で蓋)	深鉢	水神平			09	斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	深鉢	檜王	09	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			10	斜位	単棺	甕・深鉢	馬見塚	10	斜位	単棺	甕・深鉢	馬見塚
		横位	合口棺	深鉢	馬見塚			11	斜位	合口棺	深鉢	檜王	11	斜位	合口棺	深鉢	檜王
		横位	単棺	深鉢	檜王			12	横位	単棺	深鉢	馬見塚	12	横位	単棺	深鉢	馬見塚
		横位	単棺	深鉢	馬見塚			13	横位	単棺	深鉢	馬見塚	13	横位	単棺	深鉢	馬見塚
		横位	合口棺	深鉢	水神平			14	斜位	単棺 (甕の肩部で蓋)	深鉢	五貴森	14	斜位	単棺	深鉢	五貴森
		横位	単棺	深鉢	五貴森			15	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	15	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		横位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚			16	横位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚	16	斜位	合口棺	甕・深鉢	馬見塚
		横位	単棺	甕	馬見塚			17	斜位	単棺	甕	馬見塚	17	斜位	単棺	甕	馬見塚
		斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚			18	斜位	単棺	甕	馬見塚	18	斜位	単棺	甕	馬見塚
		斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚			19	斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚	19	斜位	単棺	甕	馬見塚
		斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚			20	斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚	20	斜位	単棺	甕	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			21	斜位	単棺	深鉢	檜王	21	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			22	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	22	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			23	斜位	単棺 (甕の肩部で蓋)	深鉢	檜王	23	斜位	単棺 (甕の肩部で蓋)	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			24	斜位	単棺	深鉢	五貴森	24	斜位	単棺	深鉢	五貴森
		斜位	単棺	深鉢	五貴森			25	斜位	単棺	深鉢	檜王	25	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			26	斜位	単棺	深鉢	水神平	26	斜位	単棺	深鉢	水神平
		斜位	単棺	深鉢	水神平			27	斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	深鉢	檜王	27	斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			28	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	28	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			29	斜位	単棺	深鉢	檜王	29	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			30	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	30	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			31	斜位	単棺	深鉢	檜王	31	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			32	斜位	単棺	深鉢	五貴森	32	斜位	単棺	深鉢	五貴森
		斜位	単棺	深鉢	五貴森			33	斜位	単棺	深鉢	檜王	33	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			34	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	34	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			35	斜位	単棺	深鉢	檜王	35	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			36	斜位	単棺	深鉢	五貴森	36	斜位	単棺	深鉢	五貴森
		斜位	単棺	深鉢	五貴森			37	斜位	単棺	深鉢	檜王	37	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			38	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	38	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			39	斜位	単棺	深鉢	檜王	39	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			40	斜位	単棺	深鉢	五貴森	40	斜位	単棺	深鉢	五貴森
		斜位	単棺	深鉢	五貴森			41	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	41	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			42	斜位	単棺 (深鉢の底部で蓋)	深鉢	檜王	42	斜位	単棺 (深鉢の底部で蓋)	深鉢	檜王
		斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚			43	斜位	単棺	深鉢	水神平	43	斜位	単棺	深鉢	水神平
		斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚			44	斜位	単棺	深鉢	檜王	44	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	甕	馬見塚			45	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	45	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			46	斜位	単棺	深鉢	檜王	46	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			47	斜位	単棺 (深鉢の胴部で蓋)	深鉢	馬見塚	47	斜位	単棺 (深鉢の胴部で蓋)	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			48	斜位	単棺	深鉢	檜王	48	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			49	斜位	単棺	深鉢	五貴森	49	斜位	単棺	深鉢	五貴森
		斜位	単棺	深鉢	五貴森			50	斜位	単棺	深鉢	檜王	50	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			51	斜位	単棺 (深鉢の底部で蓋)	深鉢	馬見塚	51	斜位	単棺 (深鉢の底部で蓋)	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺 (深鉢の底部で蓋)	深鉢	馬見塚			52	斜位	単棺 (深鉢の胴部で蓋)	深鉢	檜王	52	斜位	単棺 (深鉢の胴部で蓋)	深鉢	檜王
		斜位	単棺 (深鉢の胴部で蓋)	深鉢	檜王			53	斜位	単棺	深鉢	五貴森	53	斜位	単棺	深鉢	五貴森
		斜位	単棺	深鉢	五貴森			54	斜位	単棺	深鉢	檜王	54	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			55	斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	深鉢	馬見塚	55	斜位	単棺 (甕の胴部で蓋)	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			56	斜位	単棺	深鉢	檜王	56	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			57	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	57	斜位	単棺	深鉢	馬見塚
		斜位	単棺	深鉢	馬見塚			58	斜位	単棺	深鉢	檜王	58	斜位	単棺	深鉢	檜王
		斜位	単棺	深鉢	檜王			59	斜位	単棺	深鉢	馬見塚	59	斜位	単棺	深鉢	馬見塚

土器棺墓一覽表

資料紹介

清洲城下町遺跡出土の柿経

西春日井郡清洲町

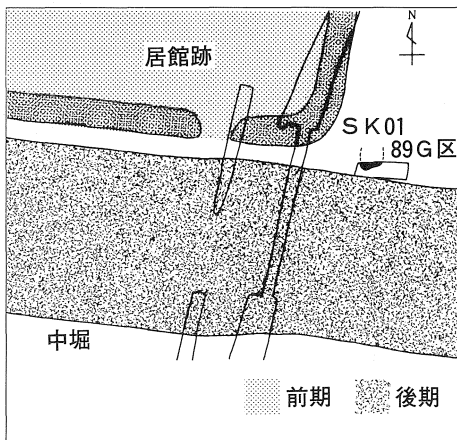
清洲城下町遺跡では堀や屋敷を囲む溝などから陶磁器の他に多量の木製品が出土している。この中には札・卒塔婆などの墨書木製品(木簡)も含まれる。今回、県道新川・清洲線関連の調査(89G区)で、柿経がまとめて出土したので、その概要について報告する。

出土状況

89G区は、清須城を3重に囲む堀の一つである中堀の内側に接する。調査区が狭いため、柿経が出土した遺構SK01は南肩のみを検出し、全形は不明である。滞水状況を示す灰色粘土におおわれ、溝または池状の遺構と思われる。灰色粘土の上層には炭化物や焼土の堆積があり、ここから長石釉の丸椀などが出土した。従って、SK01は城下町期後期以前(16世紀末以前)と考えられる。遺構の南には中堀、東には幅4mの溝で囲まれた屋敷地が展開している。柿経の出土状況は、数枚が重なって束をなし、この束が遺構内全面から多数出土した。

柿経の形態

出土した柿経は、破損して全形を留めないものが多く、経文が同定できたものは200点を超える。幅約3.5cm、長さ約33.0cm、厚さ約0.1cmを測る薄板を用い、頭部を主頭形に加工して法



遺構配置図

華経(妙法蓮華経)八巻一部の経文を書写している。前述のように柿経は束となって出土したが、これらは経文順に連続して重なっており、復元すると概ね20枚で一束になっていたと推定される。書体は一束の中では同一であるが、束毎には異なり、書写は複数の手によって行われたと見られる。誤字・脱字などの誤謬や訂正が多く見られ、写経に習熟していない人による柿経も多いと見られる。また、巻束番号を記すものもある。法華経の経文の区切り方は他の遺跡の出土例と同じで、手本を同一にする。柿経の書写形態については両面写経と片面写経があり、1450年頃を境に前者から後者に変化したとされている。本柿経は全て片面のみに墨書されており、この点でも興味深い資料である。

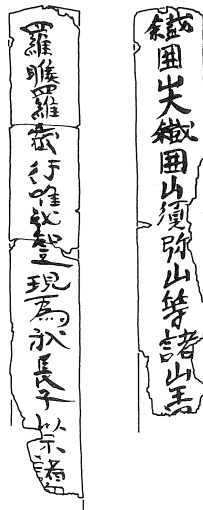
まとめ 一柿経とその出土の意味一

清須城下町では、柿経の出土例は清洲城下町遺跡59A区NR01、朝日西遺跡59D区SD11などがあるが、部分的な検出に留まり、釈文がまとめて判明したものは今回の資料が初めてである。本柿経は法華経一巻を多人数で一斉に写経したものを滞水状況をしめす遺構に一括して投げ入れたものである。調査区が極めて部分的であるため遺構の性格と時期は断定し得ないが、位置的には城下町期後期においては中堀の内側に接し、前期においては溝を巡らした家臣の居

館跡が集中する地区で検出している。出土地点の近くに寺院が存在した可能性を考えると共に、居館での柿経に伴う精神的な行為を表す資料となるかもしれない。(鈴木正貴)

参考文献

『日本仏教民俗基礎資料集成第6巻 元興寺極楽坊Ⅵ こけら経・經典・祭文・和讃・暦』 1975 中央公論美術出版



柿経(1:4)

愛知県埋蔵文化財担当専門職員名簿 (平成2年6月1日現在)

県市町 村名	所 属	電 話		県市町 村名	所 属	電 話							
		職 名	氏 名			職 名	氏 名						
愛知県	教育委員会文化財課	(052)	961-2111	新城市	教育委員会社会教育課	(05362)	3-1111						
		主任	赤羽 一郎			書記	鈴木 隆司						
	埋蔵文化財調査センター	(0567)	67-4164	師勝町	教育委員会社会教育課	(0568)	23-6111						
		教育主事	梅本 博志			主事	市橋 芳則						
陶磁資料館	所長	(0561)	84-7474	吉良町	教育委員会社会教育課	(0563)	32-1111						
						主査	中川 真文	主査	萩野 栄				
	学芸課長	柴垣 勇夫	一宮町	教育委員会教育課	(053393)	3111							
	主任学芸員	浅田 員由			主事	須川 勝以							
	〃	仲野 泰裕	田原町	教育委員会	(05312)	2-1151							
	学芸員	井上 喜久男			学芸員	増山 禎之							
〃	野末 浩之	名古屋市	名古屋市見晴台考古資料館	(052)	823-3200								
〃				学芸員	野口 泰子								
〃				〃	平出 紀男								
〃				〃	木村 有作								
〃				〃	川合 剛								
〃				〃	水野 裕之								
〃				〃	伊藤 正人								
〃				〃	服部 哲也								
〃				〃	竹内 宇哲								
〃				〃	伊藤 厚史								
名古屋市	教育委員会文化課	(052)	972-3268	一宮市	一宮市博物館	(0586)	46-3215						
		学芸員	小島 一夫			館長	岩野 見司						
		〃	山田 敏一			学芸員	土本 典生						
瀬戸市	教育委員会文化財課	(0561)	21-1951	〃	田中 禎子	尾西市	尾西市歴史民俗資料館						
		調査係長	藤澤 良祐	(0586)	62-9711								
		主事	服部 郁	学芸員	伊藤 和彦								
春日井市	教育委員会民俗考古調査室	(0568)	33-1111	〃	山下 峰司	半田市	半田市立博物館						
								〃	加藤 大蔵	(0569)	23-7173		
								〃	松澤 和人	館長	立松 宏		
								〃	大蔵 順子	学芸員	近藤 英正		
小牧市	教育委員会社会教育課	(0568)	72-2101	〃	大矢 頭	常滑市	常滑市民俗資料館						
								主査	中嶋 隆	(05693)	4-5290		
								主事補	坪井 裕司	学芸員	中野 晴久		
稲沢市	教育委員会社会教育課	(0587)	32-1111	〃	北條 献示	知立市	知立市歴史民俗資料館						
								主事	日野 幸治	(0566)	83-1133		
								書記	日野 幸治	主事	岡本 茂史		
東海市	教育委員会社会教育課	(052)	603-2211	〃	立松 彰	豊橋市	豊橋市美術博物館						
								主査	立松 彰	(0532)	51-2621		
岡崎市	教育委員会市史編纂事務局	(0564)	23-6439	〃	川崎 みどり	蒲郡市	蒲郡市博物館						
								〃	伊藤 久美子	(0533)	68-1881		
安城市	教育委員会文化財課	(0566)	76-1111	〃	岡安 雅彦	学芸員主査	小笠原 久和						
								〃	天野 信治	清洲町	清洲貝殻山貝塚資料館		
								〃	斎藤 弘之			(052)	409-1467
								〃	奥村 勝信			技師	野口 哲也
西尾市	教育委員会社会教育課	(0563)	56-7722	〃	松井 直樹	美和町	美和町歴史民俗資料館						
								主査	松井 直樹	(052)	442-8522		
豊田市	教育委員会社会教育課	(0565)	31-1212	〃	田端 勉	武豊町	武豊町歴史民俗資料館						
								副主幹	伊藤 達也	(0569)	73-4100		
								主査	森 泰通	館長	磯部 幸男		
豊川市	教育委員会社会教育課	(05338)	5-2111	〃	伊藤 達也	学芸員補	奥川 弘成						
								主事	森 泰通	設楽町	設楽町立奥三河郷土館		
								〃				(05366)	2-1440
								〃				館長	鈴木 富美夫
〃		主事	鈴木 明彦										
足助町	足助資料館	(0565)	62-0387	〃	前田 清彦	足助町	足助資料館						
								館長	鈴木 茂夫				
〃	主事	鈴木 明彦											

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 職員名簿一覧

役員	保存科学	江本 義理	東京国立文化財研究所 所名誉研究員
理事長 松川 誠次	岩石学	諏訪 兼位	名古屋大学教授
常務理事 鈴木 正明	木材組織学	木方 洋二	名古屋大学教授
理事	職員		
小金 潔 県教育長	事務局長 (兼管理課長)	川島 一夫	
井関 弘太郎 中部大学教授	管理課		
伊藤 秋男 南山大学教授	主査 古田 伴弘		
大参 義一 信州大学教授	主事 伊藤 秀城	後藤 捨成	
坪井 清足 (財)大阪文化財センター理事長		村上 寿章	小倉 晴美
橋崎 彰一 名古屋学院大学教授	調査課		
稲石 新 都市教育長協議会会長 (蒲郡市教育長)	課長 加藤 安信		
大溪 紀雄 町村教育長協議会会長 (吉良町教育長)	課長補佐兼主査 森 勇一	福岡 晃彦	
石井 晃一 県土木部長	主査 山田 基真	鍋 雅治	
鈴木 隆俊 県教育委員会社会教育部長	日比 宰	城ヶ谷 和広	
武田 晋 県清洲貝殻山貝塚資料館館長 (清洲町長)	主事 大橋 正明	遠藤 才文	
亀井 誠治 県陶磁資料館館長	小澤 一弘	松原 隆治	
監事	鷺見 豊	安井 俊則	
福地 甲子八	赤塚 次郎	小塚 俊夫	
磯貝 満洲 県出納事務局次長	石黒 立人	宮腰 健司	
専門委員	北村 和宏	酒井 俊彦	
考古学 橋崎 彰一 名古屋学院大学教授	池本 正明	服部 信博	
文献史学 早川 庄八 名古屋大学教授	川井 啓介	鈴木 正貴	
地理学 井関弘太郎 中部大学教授	樋上 昇		
建築史学 浅野 清 愛知工業大学客員教授	嘱託 松田 訓	岡本 直久	
動植物考古学 渡辺 誠 名古屋大学教授	加藤 とよ江	金子 健一	
形質人類学 池田 次郎 岡山理科大学教授	伊藤 隆彦	尾野 善裕	

(平成2年6月1日現在)

セ ン タ ー 一 日 誌

役員の変動	神谷 友和	安城市立安城北中学校へ
理事辞任 3月31日 下田 修司	佐藤 公保	愛知県立鳴海高等学校へ
〃 〃 白井 正巳	後藤 浩一	愛知県立大府高等学校へ
〃 〃 山田 五夫	山口 昌直	三重県上野市遺跡調査会へ
〃 5月31日 金島 寛		
監事辞任 3月31日 小倉 政則		
職員の変動		
渡辺 守夫	津島勤労福祉会館館長へ	
鈴木 孝治	県教育委員会福利課へ	
大野 智靖	事務管理課へ	
明壁 正毅	愛知県立横須賀高等学校へ	
山仲 廣司	西春町立五条小学校へ	
梅本 博志	県教育委員会文化財課へ	

埋蔵文化財愛知 No. 21

発行 平成2年7月
 編集 愛知県埋蔵文化財センター
 〒498 愛知県海部郡弥富町字前ヶ須新田
 字野方802番24
 TEL 0567-67-4161~4163
 印刷 株式会社 クイックス